


ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和5年6月9日(金)	確認目的	運転員のトレーニング状況
確認箇所	協力企業棟シミュレータ室		
確認設備	<input type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input type="checkbox"/> 移送設備	<input type="checkbox"/> 希釈設備 <input checked="" type="checkbox"/> その他
確認結果	<p>ALPS 処理水の放出にあたり、ALPS 処理水の放出流量の監視やポンプ、弁の制御等、ALPS 処理水希釈放出設備の監視、制御は、免震重要棟に設置されている監視・制御装置により行われる。</p> <p>協力企業棟において、監視・制御装置を模擬したシミュレータによるALPS 処理水希釈放出設備運転員のトレーニングが行われていることから、その状況を確認した。(写真1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監視・制御装置の操作は、二人一組で行われており、各操作(弁の開閉等)の都度、指差呼称、ダブルチェックを行っていた。 ・ トリチウム濃度の分析結果を監視・制御装置に入力する際の転記ミスを防ぐため、二次元バーコードを使った入力が行われていた。入力後は、画面に表示された値に誤りがないことをダブルチェックしていた。 ・ 放出にあたっての各操作が抜けなく実施されていることを当直長が確認した後、キースイッチの操作、放出開始操作(画面上の操作)が行われていた。 ・ 上記のダブルチェック、二次元バーコードによるトリチウム濃度分析結果の入力、キースイッチ操作によるヒューマンエラー防止策に加え、東京電力では以下のようなインターロック(一定の条件が揃わないと操作できない)を設けることとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ①放出すべきタンク群の選択を誤ると機器が動作しない。 ②放出可能なトリチウム濃度、希釈倍率でない場合、放出操作ができない。 ・ 放出開始後、希釈率から計算されたALPS 処理水のトリチウム濃度が設定値(700Bq/L)どおりになっていること、トリチウムの放出積算値(Bq)がカウントアップされていることが確認された。 		
			
	(写真1) トレーニングの状況		